

自然体験活動指導者養成研修

前期 平成24年10月20日(土)～21日(日)

後期 平成24年11月24日(土)～25日(日)

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

自然体験活動を中心とする小学校長期自然体験活動等において、教育的効果を高め、かつ、安心・安全に体験活動を実施できるようにするため、プログラム計画立案、活動時の全体指導、事業評価等の助言などを行う全体指導者を養成する。

2. 事業の概要

(1) 日程

前期 平成24年10月20日(土)～21日(日)

後期 平成24年11月24日(土)～25日(日)

※ 前期と後期合わせて完結

(2) 募集人員

20名 青少年教育関係者、青少年教育施設職員、学校教育関係者、その他自然体験活動に興味・関心のある方(18歳以上)

(3) 参加者

前期 22名(大学生15名 学校教育関係者3名 自然体験活動に興味・関心がある方4名)

後期 18名(大学生11名 学校教育関係者3名 自然体験活動に興味・関心のある方4名)

(4) 講師

講義・演習名	講師	所属
学校教育における体験活動の意義	小林 真一	国立中央青少年交流の家 次長
教育課程と体験活動の関連性	藤原 敬三	岡山大学大学院教育学研究科 准教授
救命救急法	足立 和彦 加藤 典子	日本赤十字社岡山県支部 指導者
体験活動の指導法①	小林 道正	国立吉備青少年自然の家 所長

体験活動の指導法②	菊間 彰	よろず体験事務所「をかしや」代表
安全管理	小林 真一	国立中央青少年交流の家 次長
自然体験活動の技術	宮本 雅行	社団法人日本ネイチャーゲーム協会 専務理事
資格制度	太田原 康志	自然体験活動推進協議会 事務局長
プログラムの企画立案	志村 誠治 田中 翔紘	アウトドア・エデュケーションセンター 神奈川センター長 アウトドア・エデュケーションセンター 代表取締役

(5) 企画・運営のポイント

自然体験活動指導者養成講習会テキスト「学校で自然体験をすすめるために」を基に、基礎的な知識や指導者に求められる役割が理解できるように実施した。さらに、機構が作成した「体験の風をおこそう」を参考資料として活用した。

また、講師の選定については各分野からバランスよく配置するようにした。

なお、受講者の大半は大学生であることから、各講師には受講者の活動の様子を伝え、講義の内容など研修全体がスムーズに流れるように配慮した。

3. 研修の内容等

(1) 日程

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
10/20		受付	開講式	講義 「学校教育における 体験活動の意義」	昼食		講義 「教育課程と体験 活動の関連性」	休憩	実習「救命救急法」		夕食		講義・演習 「体験学習の指導 法①」	入浴	就寝
10/21	つどい	朝食	移動	講義・演習 「体験学習の指導法②」	昼食		講義 「安全管理」	閉会							

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
11/24		受付	開会	実習 「自然体験活動の 技術①」	昼食		実習 「自然体験活動の技術②」		説明 「資格制 度」	移動	つどい	夕食	講義・演習 「プログラムの企 画立案①」	入浴	就寝
11/25	つどい	朝食	移動	講義・演習 「プログラムの企画立案 ②」	昼食		講義・演習 「プログラムの企画立案 ③」	閉講式							

(2) 研修の内容

	項目	ねらい	内容	時間
1	学校教育における 体験活動の意義	今日の社会的環境、 児童の現状、発達段階 を踏まえ、体験活動の 意義と必要性、教育的 効果を理解する。	・青少年を取り巻く社会的環境や青少年の現 状等を踏まえ、青少年の現代的課題と青少 年問題について理解する。 ・体験活動の教育的意義や学力との関係につ いて理解する。	講義 2

	項目	ねらい	内容	時間
			・発達段階に配慮した体験活動の在り方と指導者に求められる役割や資質を理解する。	
2	教育課程と体験活動の関連性	教育課程における体験活動の意義と教育課程の編成に体験活動を組み込む方法について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領における体験活動の位置づけを理解する。 ・長期集団宿泊体験活動の指導上の留意事項や運営上の問題を理解する。 ・学校における集団宿泊体験活動の実際（生活指導を含む）を理解する。 	講義 2
3	プログラムの企画立案	自然体験活動におけるプログラムの企画立案から評価までの一連の流れや企画立案の方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と人、社会、文化の関わりや青少年教育施設との連携、地域の人材の活用など、企画立案時に留意することを理解する。 ・教育課程に則した体験活動事業プログラムの事例研究を行う。 ・企画立案から評価までの流れと各段階で留意することを理解する。 	講義・演習 5
4	自然体験活動の技術	自然体験活動の技術を習得する。	・自然の中で生活・活動を行う上で必要とされる基礎的な技術を習得する。	実習 5
5	体験活動の指導法	体験活動の基礎的な指導方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係をつくることや環境保全に興味・関心をもつことなど、目的に応じた指導法を理解する。 ・体験活動の指導法の演習を行う。 	講義・演習 5
6	安全管理	安全管理の視点や安全計画の立案について理解するとともに、救命救急法の基本技術を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動における安全管理の基本的な考え方を理解する。 ・活動前と活動中の安全管理及び事故への対応方法を理解する。 ・救命救急法の実習を行う。 	講義 2 実習 (救命救急法) 3
時間計				24

<研修の様子>



自然体験活動の技術
(ネイチャーゲーム)



プログラムの企画立案



資格制度について

4. 成果・課題

(1) 成果

受講者の大半は将来、小学校の教員を目指す大学生であり、今までに野外での宿泊研修や自然体験活動の指導経験がほとんどなく、研修を受けたことで理論的・実践的な内容がバランスよく学べ、自然体験活動の指導に意欲が湧いたようである。

また、「プログラムの企画立案」の内容は難しかったようであるが、受講者にとっては新しい手法を知ることができ、今後の活動に取り組むに当たって有効であると思われる。

各講義の内容は受講者にとって興味のもてるものであり、各講師には事前にフィールドの状況や受講生の様子などを伝え、各講義・演習の内容の重なりを少なくし、研修全体につながりがもてるように工夫した。その為、受講生にとっては気付きと学びの多いものになったように思う。

(2) 参加者の声

{アンケート集計}

1回目、2回目とも

- 事業全体に対する満足度・・・・・・・・・・100%
- 事業のプログラムに対する満足度・・・・100%
- 事業の運営に関する満足度・・・・・・・・100%
- 職員の指導、助言に関する満足度・・・・100%

{参加者自由記述}

- ・ 理論的な内容と実践的な内容がバランスよく設定されていてよかった。初めての参加でも分かりやすい内容で、他の参加者との交流もあり楽しかった。
- ・ 自然体験活動だけでなく、教科・領域を越えた学びになった。企画立案は非常に難しかったですが、今日学べてよかったです。
- ・ ネイチャーゲームも企画立案も大変勉強になり、新たな発見が多かったです。今後の活動を行うに当たって、とても活かせるプログラムだと思いました。
- ・ 職員の方に指導助言をしていただき、その中でいろいろなことに気付くことができました。とても丁寧に教えていただいたので分かりやすかったです。

(3) 今後の課題等

今年度で「自然体験活動指導者養成研修」が終了することになるが、この研修で全体指導者と補助指導者の資格を取得しても、実際に長期宿泊研修において直接指導をする機会が少ないということが課題としてあげられる。

指導者の養成だけでなく、小学校長期宿泊研修を行う学校と連携し、全体指導者や補助指導者が活躍する場の提供を確保していくための仕掛けづくりが必要である。

担当：企画指導専門職 村上 聖一